

塑性加工の総合専門誌

プレス技術

1

2017
Vol. 55
No. 1

PRESS WORKING

特集

ビジネスチャンスを広げる塑性加工メーカーの事業連携

巻頭インタビュー (株)三ツ知 代表取締役社長 荒木直人氏「転機を好機と捉え、成長への新たなスタートを切る」

詳報 JIMTOF2016 レポート 好評連載 仕事に活かすアイデア発想レシピ

オートターンテーブル

MYTEL

次代を見せる業界のパイオニア



SSS **SATSUKI**

プレス関連自動化・省力化装置

サツキ機材株式会社

Futaba Group

第29回竹内記念・ニュー型研サロン 「つながる技術」、「事業継承」、「ショットピーニング」

竹内型材研究所

(株)竹内型材研究所(神奈川県伊勢原市、内山真司社長、0463-93-7771)は「第29回竹内記念・ニュー型研サロン」を11月5日に東京都港区の日立金属・高輪和彊館で開いた。竹内型材研究所が主催していた型材研究会から続く親睦団体の勉強会で、今回は会員の竹内型材研究所の内山社長、三基精工(株)の山崎和彦社長、ゲストスピーカーであるショットピーニング技術協会の当舎勝次会長による講演などを行った。

つながる技術

内山社長は「顧客『つながる』手法の検討～型研サロン 仮想空間ギャラリーについて～」をテーマにWebによる動画やSNSなどの各種コンテンツを活用した新しい価値の創造を提案した。ビジネス環境がスマート化、コモディティ化、人口減少によって大きく変化する中、Webなどの「つながる」技術を通じて、『必要なもの』を『必要なタイミング』で『必要な数だけ』提供する質とバランスが大切」と内山社長。動画やSNSを使い会社の認知度を向上させるための取組みを自社のホームページの活用などを通じて紹介した。また、型研サロン会員で検討中の「仮想空間ギャラリー」の構想についても触れ米国の「スケルトン仮想展示イメージ」などを例にITを活用した塑性加工技術の伝承への可能性も提案した。

また、関連して同サロンの若手会員らが実施した台湾企業の視察ツアーの報告も行われ、現地企業訪問や旅行の経緯などをビデオに変種して紹介。若手による「つながる技術」の活用をアピールした。

事業継承と持続的経営

山崎社長は「家業を継ぐこと」と題し、江戸末期から約150年続く金属プレス企業の5代目として事業継承、持続的経営に対する思いを語った。

3人兄弟の長男で子供のころから「跡継ぎ」と言われて育ち、事業継承を自明のものと受け入れていたが、実際に会社に入社し、リーマンショックを受けて人員削減などを経験。2011年に37歳で社長就任し、会社運営の厳しさに直面しつつも「家業を継ぐということは歴史を残すこと」と人材の育成に注力し、大卒の新卒採用や技能士取得を義務付けるなど組織のボトムアップに取り組んできた。そこで得た教訓が「社長としての資質が備わっているかどうかは自分ではわからないが、理想の経営者像に近づくことはできる」との気持ちであり、先代の「いま決断しようとしていることは従業員にとってプラスとなるものなのか」という教えがいまの経営の重要な判断基準になっていると語った。

塑性加工でのショットピーニングの可能性

また、技術講演として当舎会長による「ショットピーニングの勘所、ショットピーニング材の機能性、金型・工具類への応用」が行われた。ショットピーニングの設備や効果的な活用法をはじめ機能性などについて解説。適用事例として微細な凹凸の付け方や磨き、表面層の強化について紹介し、塑性加工への応用メリットを提示した。

